

# 施工要領書

リョクセンマット  
(亀甲金網付き)

令和6年版

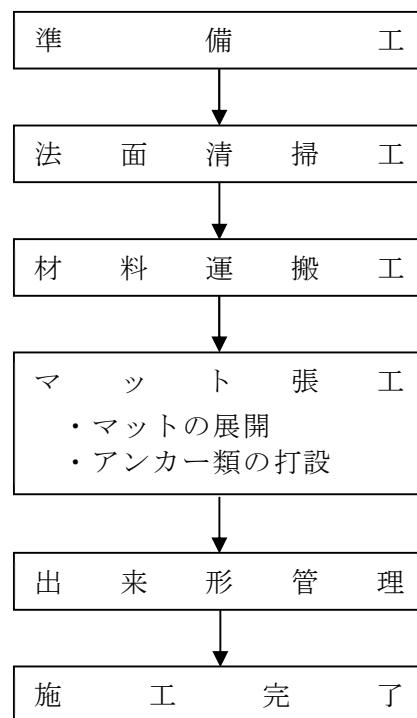
## 1. 概要

本書は、補強鉄線付植生マット（亀甲金網付、以下マットと略）の施工要領についてまとめたものである。

同マットは、半開型 2 重織ネットに取り付けられた植生袋（生育基盤材・種子などを充填した袋）の上部に、法面の保護機能を高めるための補強鉄線を約 60cm 間隔で配置し、さらに表面に亀甲金網を装着した製品である。

施工にあたっては、可能な限り法面にマットを密着させるよう施工することが大切である。

## 2. 施工フロー



## 3. 施工手順

### 1) 法面清掃

施工の支障となるかぶりや浮石、その他の雑物を除去する。

### 2) 材料運搬

マット、アンカー類を施工箇所に運搬する。運搬は、作業道を使っての小運搬またはロープによる荷揚げ等によって行う。

### 3) マット張工

#### ① マットの展開

- マットを製品に付けられたシール表示に従い、亀甲金網がおもて面に、シール装着部が法肩側になるように展開する（この際、植生袋が必ず等高線状（水平）になるように展開する）。マットを法尻部でカットするなどしてシールがない場合には、植生袋装着部を観察し、必ずネット粗部が法肩側となるようにして設置を行う（図1参照）。  
なお、法肩部のマット巻き込みは、20 cm程度を目安とする（法面条件による）。

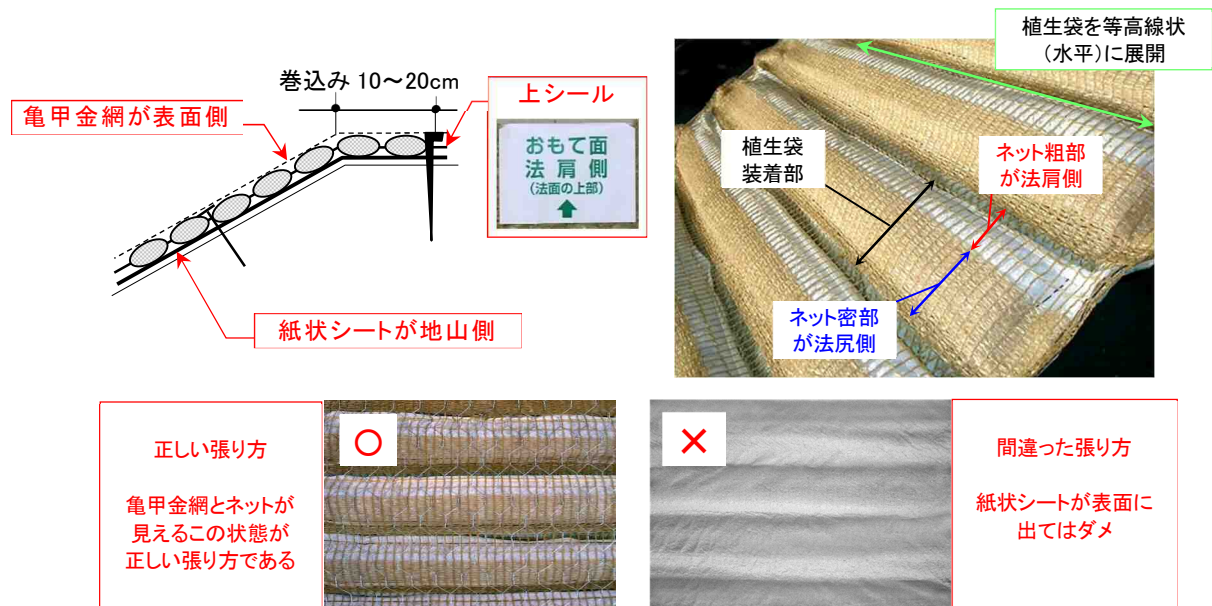


図 1. マットの展開・施工方法

- マットの重ね合せは、上下方向は5~10 cm程度、左右方向は2~5cm程度（マットとマットの間に隙間が生じないこと）を目安とする。

注) マット展開・施工時の留意事項

マットは可能な限り地山と密着するように施工することが大切である。

そのためには、マットを一気に展開せず足で保持しながら、順次法尻方向に向かって施工するのが望ましい（図2参照）。



図 2. マットの展開・施工方法

## ②アンカー類の打設

- アンカー類を所定の位置に打設し、マットを法面に固定する（詳細は別紙：施工図面を参照する）。
- アンカー類は補強鉄線を装着した箇所に打設するのを標準とする。その際、アンカー類は補強鉄線を下から支えるように地山にしっかりと打ち込み、補強鉄線が地山に密着するように（地山になじむように）留意して施工する。  
 なお、補強鉄線端部へのアンカー類打設方法（補強鉄線同士の接続方法）については、図3、及び別紙：施工図面を参照する。

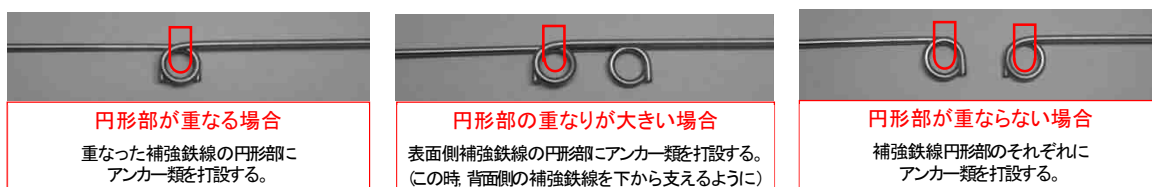



図3. 補強鉄線端部へのアンカー類の打設方法（がアンカー打設箇所）

- マット上下方向の接続部（重ね合わせ部）については、下側マットが表面側にくるように、かつ補強鉄線が接続部の上端にくるようにして設置する。アンカー類は補強鉄線を下から支えるように地山にしっかりと打ち込み（5点打ちを標準とする）、補強鉄線が地山に密着・固定されるように留意する（図4参照）。

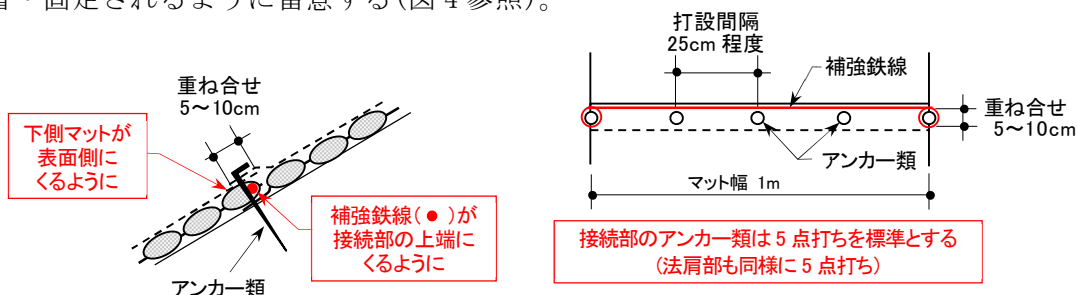


図4. マット上下方向の重ね合わせとアンカー類の打設

## ③マット左右の連結

- 連結具を所定の位置に設置し、マットの左右を接続する（詳細は図5、および別紙：施工図面を参照する）。

注) マット左右の連結は、ネット部分で実施する（亀甲金網は連結しない）。

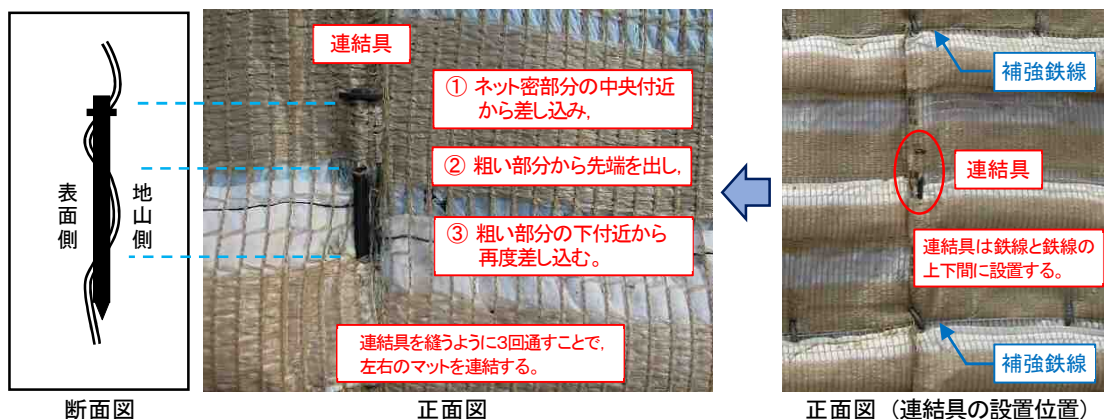


図5. マット左右接続部の連結方法

#### 4. 施工管理

##### 1) 保管

マットは水溶性の素材や種子等を装着しているため、現場内での保管には十分注意する。直射日光や雨水が当たらない場所で保管し、高温多湿の環境にならないよう留意する。

##### 2) 出来形管理

マットの敷設完了後、出来形管理としてアンカー類や連結具の打設本数や打設間隔を測定する（出来形管理の内容については、発注者の検査基準に準ずる。また頻度については、発注者と協議のうえ決定する）。

なお、法肩部や重ね合せ部等において、アンカー類の仕様や打設本数が異なる箇所がある場合には、必要に応じて別途検測を行うのが望ましい。

以上